

大分県における夏秋どりイチゴの栽培

第1報 品種と作型

永瀬東雄・山田芳文・安部貞昭 (大分県農業技術センター)

Haruo NAGASE, Yoshifumi YAMADA and Sadaaki ABE :

Culture of Summer Strawberry in Oita Prefecture

1. Varieties and Cropping Season

九州における夏秋どりイチゴ栽培は、品質の良いものが収穫できなかったことから産地形成までには至っていない。しかし、近年、四季成り性の有望品種が幾つか作出されているので、大分県の標高300~900mにおける冷涼な気候を利用して、雨よけハウスによる夏秋どりイチゴの栽培について検討し、作型設定を行った。

1. 材料及び方法

試験1 ; 1989年に九重町田野の標高890mの場内で、四季成り性の5品種(‘サマーベリー’ ‘エパーベリー’ ‘夏芳’ ‘みよし’ ‘大石四季成り2号’)を供試した。定植は7月19日、株間は25cm、畝幅115cmの2条植えで品種の選定を行った。

試験2 ; 1993年に標高890mの場内において、品種‘サマーベリー’を使い5月24日と6月21日に定植して作型の検討を行った。株間は23cm、畝幅120cmの2条植え、基肥(kg/a)はN1.0, P₂O₅2.5, K₂O0.8, 追肥(kg/a)は5月植えをN1.8, P₂O₅0.6, K₂O1.6, 6月植えをN1.2, P₂O₅0.4, K₂O1.0とした。

試験3 ; 1993年に標高300mと500mの現地において、品種‘サマーベリー’を用い5月25日(300m)と6月7日(500m)に定植、株間25cm、畝幅115cmの2条植えで検討した。

2. 結果及び考察

試験1 ; 5品種の中では‘サマーベリー’が育苗時から生育が旺盛で、クラウンの肥大も良く、収量が多く、1果重の大きさもL果率(15g以上)が25%と高かった(第1表)。他の品種はS果(5~10g未満)が多く商品性が劣った。果形は‘サマーベリー’が長円錐形ですぐれ、‘夏芳’、‘みよし’が楕円形、‘大石四季成り2号’、‘エパーベリー’が円形であった。食味は高温期におい

てやや酸味が強くなるが品種間の差は小さかった。

試験2 ; 5月24日植えでは6月28日から収穫が始まり、8月中旬から9月上旬に一時収穫量が少なくなったが、9月中旬から再び多くなり、11月までにa当たり276kgの収量で、平均1果重は10.8gあった。6月21日植えでは、収穫が7月16日から始まりa当たり226kgの収量で、収穫のピークが5月植えに比べて1か月ほど遅れ11月に集中した。平均1果重は12.5gで大きかった(第2表)。

試験3 ; 標高500mの現地では7月1日から10月4日までの約3か月でa当たり244kgの収量であった。収穫ピークは7月と9月にあり、8月の収穫量が少なかった。また、平均1果重は10.0gであった。標高300mでは7月5日から収穫となり、10月17日で打ち切った。収量はa当たり117kgで、8月と10月の落ち込みが大きかった(第3表)。

第2表 定植時期と月別収量 (1993年, 標高890m)

処理	6月	7月	8月	9月	10月	11月	合計	平均1果重(g)	収量(kg/a)
	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)			
5月24日	20	572	680	461	1,340	875	3,948	10.8	276.4
6月20日	-	144	647	170	897	1,377	3,325	12.5	226.5

第3表 標高300mと500mにおける月別収量 (1993年)

標高	7月	8月	9月	10月	合計	平均1果重(g)	収量(kg/a)
	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)	(g/10株)			
300m	665	180	665	170	1,680	-	117.4
500m	1,486	481	1,051	736	3,754	10.0	244.0

第1表 四季成り性品種の収量と品質 (1989年, 標高890m)

項目	月別収量(g/10株)			合計		1果平均重(g)	収量(kg/a)	L果率(%)
	8月	9月	10月	果重(g/10株)	果数(個/10株)			
大石四季成り2号	57	276	406	739	88	8.4	61.6	1.2
エパーベリー	78	535	851	1,464	187	7.9	122.3	1.1
夏芳	62	656	174	892	107	8.3	74.3	3.0
サマーベリー	63	576	672	1,311	113	11.6	109.2	24.6
みよし	48	624	524	1,196	172	7.0	99.6	0.0

以上の結果、標高500~900mにおいて品種‘サマーベリー’を用いて栽培すると、7月から10月にかけてa当たり220~270kgの収量が期待される。また、標高が高いほど品質の良いものが収穫できる。定植時期は5月植えが収量的に安定しており、新作型として普及可能であると判断した。